

特集：図書館業務のコンピューター化

図書館トータルシステム LIBROS 稼動報告

仲井道子

1. はじめに

近鉄奈良駅よりバスで15分、県護国神社北側に位置する本学は設立後28年の短大で、生活科学、初等教育2学科があり、学生数は約1,300人、専任・非常勤の教職員は200人である。図書館は司書4名で、サービスの数値では水準をクリアしているが、蔵書はやや小規模で運用図書は約43,000冊、所蔵雑誌は約550種である。

2. LIBROSを使った業務のあらまし

— トータルシステムの中味 —

当館がパーソナル・コンピューター（NEC PC-9800シリーズ）と図書館トータルシステム LIBROSによる業務の機械化を始めてから7年目になる。コンピューターは利用者のデータ検索およびCD-ROM資料閲覧のための1台を含め、現在5台使用しており、それぞれの用途に応じてCD-ROMドライブやハードディスク、専用電話回線等を接続し、当初からトータルシステムとして稼動することを目指してきた。このLIBROSを使った当館の業務の概要を紹介する。

(1) 図書整理業務

- 1) 選書……MARC(J-BISC、N-BISC)^{*1}の利用
- 2) 発注……選書資料、発注書・伝票作成
- 3) 納品・検収……発注データから必要リスト作成
- 4) 受入……図書原簿、新着図書リスト作成
- 5) 整理……カード目録、冊子体目録作成

- 6) 装備……バーコード、図書ラベル作成
- 7) データベース構築……入力データの検索
※コンピューター化以前のデータは遡及入力
- (2) 雑誌管理業務
 - 1) 受入・予算管理……新着リスト作成
 - 2) 書誌データ管理……所蔵雑誌目録作成
 - 3) 雑誌記事索引……特集記事の入力ストック
- (3) 情報検索
 - 1) オンライン検索……NACSIS-IR^{*2}、教育情報
 - 2) オフライン検索……CD-ROM版(J-BISC 遡及検索)
- (4) 貸出管理業務
 - 1) 貸出、予約、返却、延滞督促……各データ作成
 - 2) 利用者登録、蔵書マスター
 - 3) 利用統計……統計資料・グラフ作成
- (5) 図書館予算管理
- (6) 文書作成

遡及入力が終了した時点で現在稼動している個々の業務と蔵書データベースを有機的に関連させ、真の意味の図書館トータルシステムを機能させる予定にしている。

遡れば機械化以前の20年間も常にいくばくかの機器を目録カードやラベル作成に使ってきた。謄写版から始まり、ポスター、シュプリンター、そしてカード複写機、手動や電動の英文・和文タイプライター、コピー機や電卓等の機器を使用して業務の効率化を図ってきたが、図書館資料組織化のための必要なツールづくりは十分ではなかった。今や、コンピューターの画面に向かってのデータ入力と打ち出し、その鮮やかな変転に目を見張りながらも、更なる段階に向かっていこうとしているところである。

なかい みちこ：奈良佐保女学院短期大学図書館

3. LIBROSⅡを使った図書・雑誌整理業務

以下に簡単にLIBROSを使った図書・雑誌整理業務を説明する。なお、入力フロントプロセッサとして組み込まれたワープロソフトを使って行う。

(1) 余裕のある設計

図書整理業務のためのフォームは図1のとおりである。この例は『標準外科学アトラス(医学書院刊)』のJ-BISCからの取り込みデータである。

データ画面はカード型の上中下の3画面、29項目からなっている。上画面は項目が分類記号、著者記号、巻数記号から始まり、費目、書名ヨミ入力のコード、発注月日、納品月日、価格、登録番号、受入先の台帳作成項目と、以下書名、著者、出版、対照の各事項ならびに一般注記、内容(本の内容)1の書誌事項・備考の16項目となっている。ちなみに内容は1、2、3と分かれており、この上画面では書誌事項・備考を記入するようになっている。

2枚目の中画面は書名索引、著者索引、件名索引で、上画面で既に入力した書名、著者は計算式によって自動的に入力される。その他、カード目録作成時のトレーシング部分、T. A. S. (Title、Author、Subject)と書誌番号、図書記号、寄贈番号、配架場所の11項目である。

3枚目の下画面は内容2、内容3となっており、本の内容が多岐にわたる場合にここに記入する。しかし、この例でもわかるように詳述した場合にも内容3の欄まで使うことはあまりない。

これらの入力にはカード型データベースDATABOXを使うのだが、まずメニュー画面で「メモの設計」のメモ情報の出力を見ると、上記の図書業務処理の各項目の入力可能桁数が出ている。たとえば、書名は全角112文字、著者は73、出版事項34、対照事項34、一般注記73、内容1は184.5、内容2は464、内容3は230となっている。なんと内容1、2、3を合わせると878.5、400字詰め原稿用紙2枚と4行ほども書き込めるのである。ちなみにこの「内容」という項目は他の項目が「INDEX」項目(3項目まで)と「通常」項目であるのに対し、

「文書」項目となっている。

この内容項目が「文書」項目となっているのはより多くの情報が記入できるようにというためである。LIBROSはこれまでLIBROS、New LIBROS、LIBROSⅡとバージョンアップされ、今のフォームLIBROSⅡになってから3年が経過している。既にNew LIBROSの時からMARCの取り込みが可能であったが、J-BISCのCD-ROM版による書誌データのダウンロードによる取り込みが始まるとともに、詳細な内容注記に対応できるようになった。

以上の29項目が図書整理業務処理のために設けられ、初心者であっても極めてスムーズに入力できるようわかりやすく構成されている。全集、叢書ものや定期刊行物の図書の場合はもうひとつシリーズ・マスターのメモ帳を外部ファイル用として作っておくと、インデックスキー項目の入力とファンクションキーのタッチだけで入力の大半が済むようになる。また、DATABOXの入力モードの機能で追加入力の「直前」表示の入力を利用したり、データの追加以外ではデータコピーや、文字列複写・移動によりデータ入力を省力化することもできる。

雑誌管理のデータ画面は図2のとおりで、雑誌『臨床栄養』の場合を例として挙げた。これには受入、予算管理および書誌データのメモ帳がある。

購入に関する情報記載が必要な雑誌には、受け入れ時に受入・予算管理のメモ帳フォームの受入号数1～22に価格、所蔵最新号、最新受入月日、次号予定日、本年度受入状況、特集の各項目に入力をする。ただし、受入号数が22号を超えるものについては、1カ月単位の合計額をまとめて記入する。入力後、新着雑誌一覧を打ち出し、書誌データのメモをマスターファイル、受入・予算管理をトランザクションファイルとして更新処理をする。その結果、書誌データのメモ帳は必要な項目が更新され、現況が一覧できるようになっている。累積価格に関しては受入・予算管理のメモ帳に計算式が設定されている。購入手続きの不要な雑誌は書誌データ画面に入力するのみである。

各論文の記事索引づくりは現在まだ取り組んでいないが、次の課題として考えている。

雑誌管理1 (受入・予算管理)

コード	1リンショウエイヨウ	請求記号	492	種別	111
誌名	『臨床栄養』				
発行所	医歯薬出版		受入先	ベニヤ書店	
1	930	112	刊行状況	1	
2	930	113	刊行頻度	M	
3	930	114	所蔵最新号	07月号(8101)	
4	930	115	最新号受入月日	920708	
5	930	116	次号予定日	920804	
6	930	117	累積価格1-5	4,650	
7	930	118	累積価格1-9	6,510	
8		119	累積価格1-13	6,510	
9		120	累積価格1-17	6,510	
10		121	累積価格1-20	6,510	
11		122	累積価格1-22	6,510	
本年度受入状況 Z05(1700)					
特集 ☆特集; 食物アレルギー その実態と治療					

[上]

雑誌管理2 (雑誌データ)

コード	1リンショウエイヨウ	請求記号	492	種別	111
誌名	『臨床栄養』				
発行所	医歯薬出版	編纂者		受入先	ベニヤ書店 K
誌名旧題		刊行状況	1		
所蔵状況(刊年)	所蔵: Vol.34(1969)+	刊行頻度	M		
欠号		当月受入月日	07月号(8101)		
注記		累積価格	21,070		
住所		当号価格	700		
		基本価格	700		
		保存期限			
		保管場所	閲覧室, 書庫		
		製本	B5-2		
本年度受入状況 Z05(1700)					
総目次・索引					
		最新号	07月号(8101)	次号予定日	920804

[上]

図 2

(2) データの収納件数

例として図書整理業務処理のデータ収納件数を挙げる。これはデータの項目別配列を決定するインデックス項目、インデックスキーの設定により異なってくるのであるが、通常のデータ配列や書誌作成のためには分類記号、著者記号、コード(書名ヨミや全集ものの順位)にインデックスキー1、2、3が設定され、各文字長がそれぞれ7、4、23の計34字で、1枚のフロッピーに1,930件くらい収納できる。登録台帳として登録番号の5字だけを入れる場合には2,150件くらいまで収納できる。ハードディスクの時代にフロッピー1枚の収納はさほど問題にならないかもしれないが、データのバックアップをしたり、フロッピーで仕事を

する事は多いので参考のため一応紹介した。

(3) 出力機能 — 魔法の杖・システム3 —

以上のように図書の発注、受け入れ、整理の各作業段階によるデータ入力を活用するためにLIBROSには素晴らしい打ち出し専用のシステム3がある。発注時の選書リスト、書店別発注リストと発注伝票、発注台帳、また正しく入力していれば予算管理を費目別、書店別にあるいは月別に表示、出力させることもできる。

発注伝票はカード型、シーフ型いずれも可能で、書店がシーフ型を求める場合もある。カード型の場合は打ち出し用のカード紙を使うため、受け入れ時のデータ追加や整理に便利だ。出力用のデー

タ入力完成すれば、必要に応じてバーコードラベル、目録カード、冊子体目録、図書原簿が自動生成されるといっていくらい気持ちよくできてしまう。他と比べたことはないが、比べる必要も感じないほど見事で、システム3はまさに魔法の杖のようである。もっともカードレスの場合や基本カードだけという場合には、システム3でなく入力専用のシステム2のレポート出力を活用してもさまざまに作成できる。

システム3にはその他、雑誌管理のデータから所蔵雑誌目録や雑誌記事索引等、容易に作成できる。図書整理業務ではこのように自館入力での作品によって図書の装備や書誌を整えられることが大切なのではないかと考える。

また、これを応用して図書の登録番号のバーコード作成、貸出管理するための利用者登録証用のバーコード作成も行っている。さらにスタックコードの区別によってさまざまな応用も可能である。

雑誌管理においては現在受入、予算管理のファイルと書誌データのファイル、さらには特集ものをストックしていくファイルを使っているが、個々の論文をデータ化する雑誌記事索引はまだ作成していない。システム3の記事索引打ち出しはセットされているが活用していない状態である。

4. 使用上の課題 — 必要な発想の転換 —

以上簡単に説明したが、少しはイメージを浮かべていただけたらどうか。図書整理と貸出管理が主な業務であるような図書館では、先にも述べたように資料の組織化や検索に対する有用性にはすぐには応じ得ない雑駁さがあると思う。したがって、業務の方法が機械化してもデータ入力へ向かう姿勢がまさしく問題なのだと言える。

当館では、図書のデータ入力は一般注記に参考文献や索引、年表等の構成のあるものは、将来の利用や見直しに備えて記載しているが、MARCからの取り込みデータのような件名はまだ記載していない。この場合、書名や内容にいきなり検索をかけて表示されるのを待つということになるので、自館のデータをCD-ROM版、それも検索はどこか

らでも可能な構造のCD-ROM版にしないと役に立たない。つまり、当館の状況は図書の所在は明らかになるが、さまざまな検索に耐えるにはまだまだという入力の状態だといえる。LIBROS IIではすでに検索に重点を置いた入力法に移行しているにもかかわらず、十年一日の如くのカード書きから脱けきっていない場合には、ソフトやハードの発達に伴った機能の豊かさを享受するにはほど遠いのではないかと思っている。発想を変え、図書や論文記事に対しデータ業界の切り刻みだけでない、内容の総合性と一品としての細目、アイテムを入力していくべきかどうか考慮中である。図書や論文そのものが主役となるよう光を当て、生き生きとした資料組織化のためにシステムを最大限活用していきたいと思っている。

5. LIBROSの特性

— 親切なサポートシステム —

ここで、本稿のテーマからは少しはずれるが、LIBROS稼働報告として次の二つの特性をぜひ挙げておきたい。

一点目はトータルな仕事をするという目的に沿って中味が吟味され、小さな図書館をサポートしてくれるあたたか味のあるシステムであること、二点目は不揃いのデータでもこのシステムを使っている図書館間で共同のデータベース構築ができるよう意図されていることである。要するに、利用者の多様な求めに応じられる態勢を自然に浸透させていくようなシステムであり、また機械化以前にはなかなか取り組めなかった蔵書データの共同構築が可能となる等、図書館としての当然の努力がなされているシステムだということである。

このLIBROSは会員制を採っており、お互いに研修し合うことが会の要目にもなっている。したがって、研修会では基礎的な研修はもちろんであるが、用意されているフォーム集にない業務—たとえば貸出管理や蔵書点検の技術—についても意見交換や報告がなされる。また、システム導入館のそれぞれの要望に応じたサポートがなされ、さらには先端に行く館の事例が会員館にも広められ

ていくという効果的な体制が作られている。

6. 結 び

目下、LIBROSは大幅な改訂に挑んでいる。10万冊以上の蔵書入力をした館での検索に対応できるよう、あるいはトータルシステムとしてオフコンに遜色のないようなリアルタイム処理に対応するためである。

LIBROSについては『パーソナルコンピュータと図書館』の第一刷が図書館業務機械化研究会から1990年に出版されているのでご利用いただきたい。

《 注 》

*1 MARC : 機械可読目録のこと。Japan MARCは国立国会図書館が作成している日本国内で発行された図書の書誌情報データベースのこと。この他にも米

国議会図書館で作成されている

LCMARC (Books) や LCMARC

(serials) 等、各国のMARCがある。

J-BISC : Japan MARC (日本全国書誌データのCD-ROM版。

N-BISC : ニッパンマーク新刊書籍情報のこと。日本出版販売株式会社と(社)日本図書館協会の作成している新刊書誌データのCD-ROM。

*2 NACSIS-IR : 文部省学術情報センターの情報検索サービスのこと。これは学術研究情報を迅速かつ的確に研究者に提供することを目的として、人文・社会・自然科学の全分野にわたって約2,500万件にのぼる学術情報を蓄積し、オンラインにより提供するサービスである。1991年度のサービスデータベースは36種。例えば、目録所在情報データベースが4種(和・洋図書、和・洋雑誌)、JPMARC、LCMARC等である。